

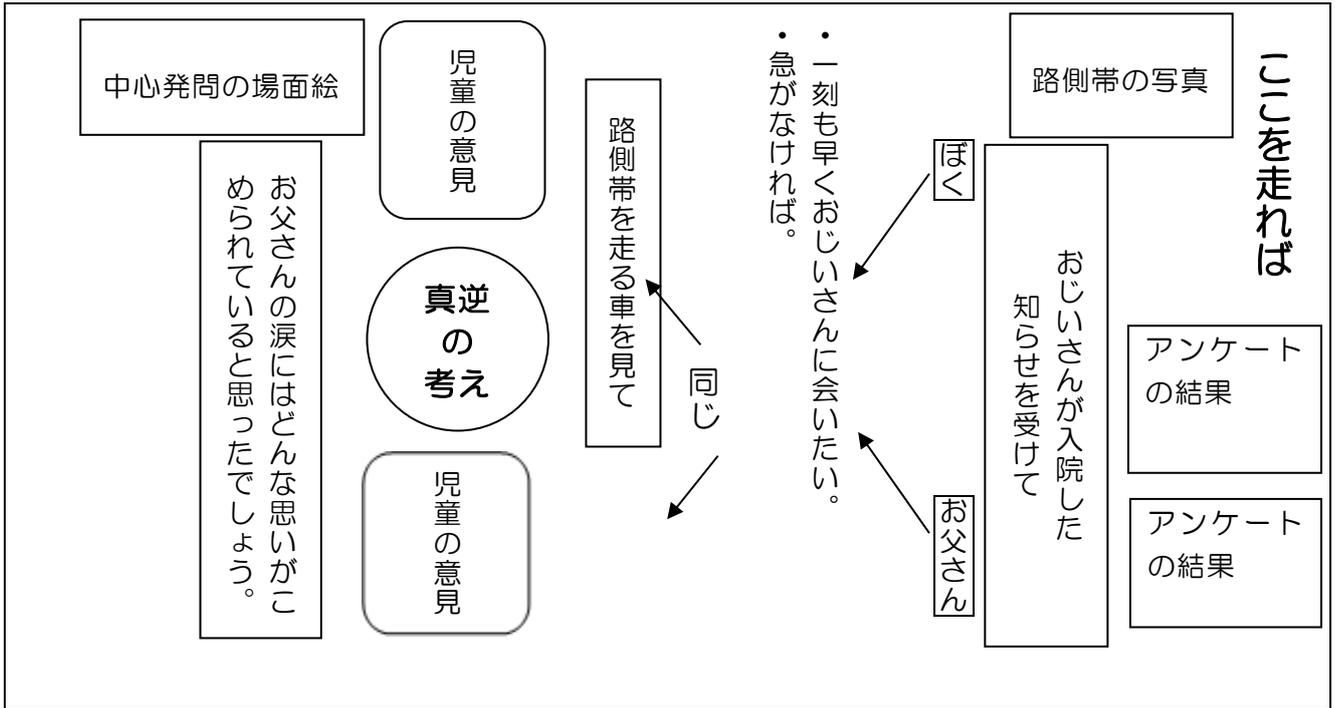
Q12 道徳科では、どのような板書が望ましいのでしょうか。

A

板書は児童にとって思考を深める重要な手掛かりとなります。そのため児童の考えを整理し、思考の深まりを促すような板書、視覚的により強く印象付けるような板書を心掛けることが大切です。板書は思いつきではなく、よく考え練られた計画的なものが望ましいです。授業案を立てる際に板書計画も立てるとよいでしょう。

1. 思考の流れや順序を示す板書

・板書計画の例 6年「ここを走れば」(規則の尊重)



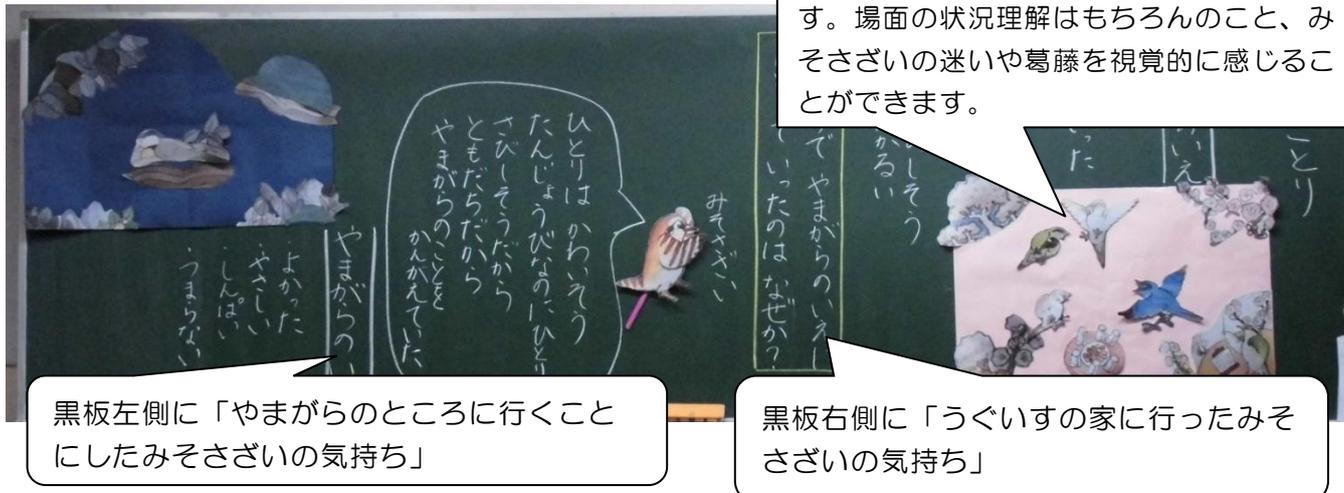
・実際の授業での板書



場面絵や主な発問のカードを使いながら、登場人物や人間関係、あらすじを確認します。物語の理解や登場人物の気持ちの理解が容易になります。

2. 対比的、構造的な板書

- ・板書の例 1年「二つの小とり」（友情、信頼）



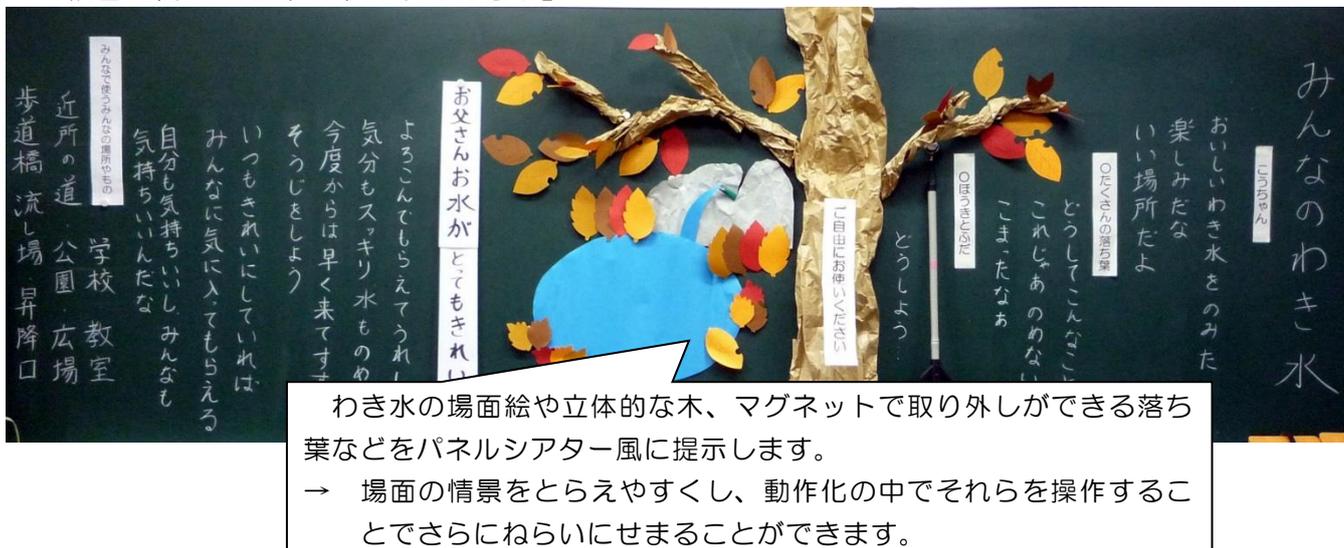
板書全体を舞台にし、ペープサートを使ってパネルシアター風に資料を提示しています。場面の状況理解はもちろんのこと、みそさざいの迷いや葛藤を視覚的に感じることができます。

黒板左側に「やまがらのところに行くことにしたみそさざいの気持ち」

黒板右側に「うぐいすの家に行ったみそさざいの気持ち」

3. 中心部分を浮き立たせる工夫のある板書

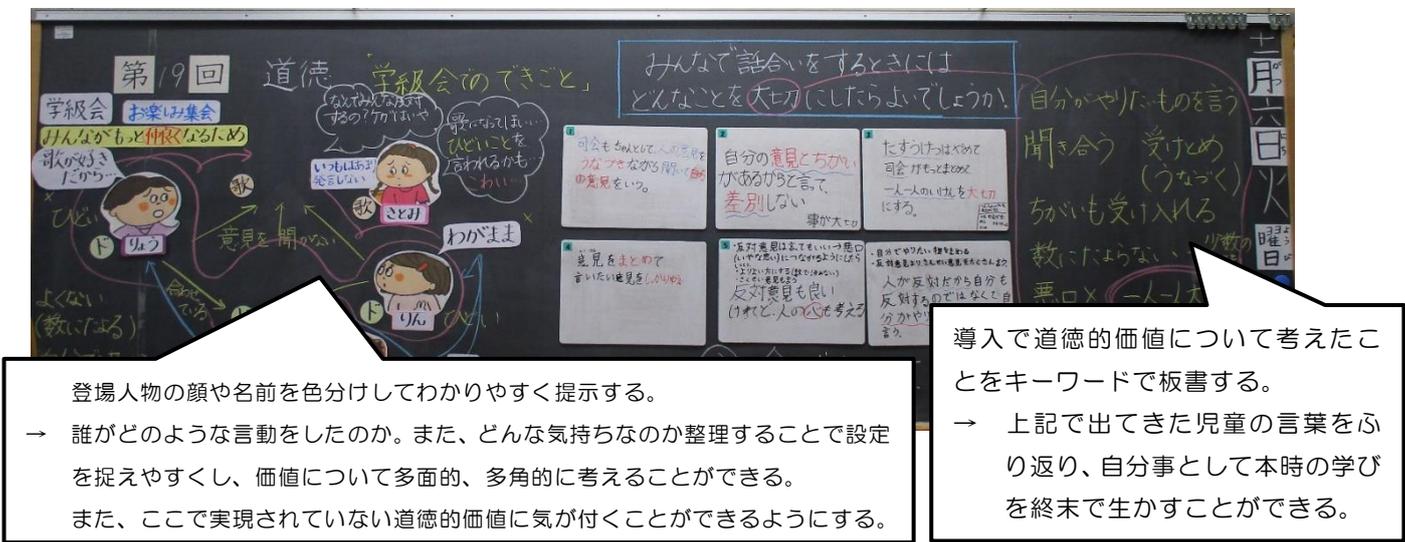
- ・板書の例 3年「みんなのわき水」



わき水の場面絵や立体的な木、マグネットで取り外しができる落ち葉などをパネルシアター風に提示します。
→ 場面の情景をとらえやすくし、動作化の中でそれら进行操作することでさらにねらいにせまることができます。

4. 登場人物の関連図をわかりやすく整理した板書（横書き）

- ・板書の例 4年「学級会でのできごと」（相互理解、寛容）



登場人物の顔や名前を色分けしてわかりやすく提示する。
→ 誰がどのような言動をしたのか。また、どんな気持ちなのか整理することで設定を捉えやすくし、価値について多面的、多角的に考えることができる。
また、ここで実現されていない道徳的価値に気が付くことができるようにする。

導入で道徳的価値について考えたことをキーワードで板書する。
→ 上記で出てきた児童の言葉をふり返り、自分事として本時の学びを終末で生かすことができる。